

「物価資料掲載単価」決定方法

2つの物価調査機関から発行される物価資料（表－1）に掲載されている単価を用いて決定している単価は、以下により決定しています。

なお、単価決定方法は応札者、受注者、製造会社、または、販売代理店等の単価決定を拘束するものではありません。

表－1 物価資料

物価調査機関	物価資料名	
	材料単価	市場単価及び土木工事標準単価
(一財)建設物価調査会	Web建設物価	季号土木コスト情報
(一財)経済調査会	積算資料電子版	季号土木施工単価

《物価資料掲載単価の単価決定方法》

- 1) 年度途中で改定があった場合は、改定単価該当欄に○等の記号を付します。
- 2) 取引数量は原則大口を採用します。
- 3) 2物価資料に単価が掲載されている材料は2物価資料単価の平均値、いずれか一方に掲載されている材料はその掲載単価を採用します。
- 4) 2物価資料に掲載されている材料の単価地区の取扱は表－2によります。
- 5) 改定単価に採用する物価資料の月号・季号は表－3のとおりです。

なお、令和元年度実施設計単価表（10月版）は、Web建設物価及び積算資料電子版の9月号を用いて単価を設定しています。

表－2 物価資料採用単価地区の取扱

	甲調査会	乙調査会	採用単価（有効数字3桁）
掲 載 単 価	長野	長野	$(甲+乙) \div 2$
	長野	関東若しくは全国	$(甲+乙) \div 2$
	全国	関東	$(甲+乙) \div 2$
	長野	東京と名古屋	甲
	関東若しくは全国	東京と名古屋	甲
	東京と名古屋	東京と名古屋	$[甲(東京+名古屋) \div 2 + 乙(東京+名古屋) \div 2] \div 2$
	東京と名古屋	東京若しくは名古屋の一方	甲 $(東京+名古屋) \div 2$

表－3

種別	改定月											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
材料単価	3月号	4月号	5月号	6月号	7月号	8月号	9月号	10月号	11月号	12月号	1月号	2月号
市場単価及び土木工事標準単価	冬号			春号			夏号			秋号		

- 6) いずれか一方に掲載されている材料の採用単価地区順位は、
①長野県 ②長野市 ③関東 ④全国 ⑤ $(東京+名古屋) \div 2$ としています。

- 7) 単価の有効桁については、「積算基準及び標準歩掛（土木工事編）(1) 第2章 工事費の積算 ①直接工事費 1 材料費 (2)価格 2)物価資料による場合」に記載のとおりです。
なお、掲載価格が整数の場合の決定額は、整数止とします。

【例1：有効桁数の大きい方を有効桁とする場合】

建設物価 10,050円(有効桁4桁) 積算資料 10,100円(有効桁3桁)
平均額 10,075円
決定額 10,070円(有効桁4桁、5桁以降切り捨て)

【例2：有効桁数の大きい方を有効桁とする場合（掲載価格が少数点以下を含む場合）】

建設物価 1.25円(有効桁3桁) 積算資料 1.2円(有効桁2桁)
平均額 1.225円
決定額 1.22円(有効桁3桁、4桁以降切り捨て)

【例3：大きい方の有効桁が3桁未満のために3桁を有効桁とする場合（掲載価格が少数点以下を含む場合）】

建設物価 0.23円(有効桁2桁) 積算資料 0.26円(有効桁2桁)
平均額 0.245円
決定額 0.245円(有効桁3桁、4桁以降切り捨て)

【例4：掲載価格が整数の場合】

建設物価 96円(有効桁2桁) 積算資料 95円(有効桁2桁)
平均額 95.5円
決定額 95円(整数止め、小数点以下切り捨て)

【例5：マイナス単価（控除する単価）の場合】

建設物価 16,500円(有効桁3桁) 積算資料 18,200円(有効桁3桁)
平均額 17,350円
決定額 17,400(-17,400)円(有効桁3桁、4桁以降切り上げ)

【例6：換算値の算出方法について】

建設物価 12,150円/本(長さ5.5m)(有効桁4桁)
換算値 2,209.09円/m(小数第3位以下切捨て)・・・①

積算資料 12,200円/本(長さ5.5m)(有効桁3桁)
換算値 2,218.18円/m(小数第3位以下切捨て)・・・②

平均額 2,213.635円($\{①+②\} \div 2$)
決定額 2,213円(有効桁4桁、5桁以降切り捨て)

単価の有効桁の取扱いは、施工パッケージ型積算方式における代表機労材規格の基準単価（東京単価）の設定にも適用されます。